第２回協働のまちづくり推進計画検討委員会　会議録

| | |
|---|---|
| 日　時 | 令和２年７月２７日（月）１０：００～１２：２０ |
| 場　所 | すこやかセンター２階　会議室１ |
| 出席委員 | 青柳委員、髙徳委員、明石委員、秋元委員、瀬良委員<br>田中委員、西澤委員、林田委員、山本委員、岡委員<br>佐藤(智）委員、宮本委員、小出委員、佐藤(恭)委員 |
| 欠席委員 | 篠原委員 |
| アドバイザー | 関谷　昇　氏（千葉大学大学院　社会科学研究院教授） |
| 事務局 | 市民活動推進課<br>髙嶋課長、佐藤主査、大木、岩井 |
| 傍聴者 | なし |

[会議次第]

１　開会

２　委員長挨拶

３　議題

⑴　第１次推進計画・後期実行計画の取組から見える課題及び新たな課題について

⑵　各グループ発表・全体共有・意見交換について

⑶　関谷教授によるアドバイス

４　その他

５　閉会

[会議概要]

| | |
|---|---|
| 事務局 | それでは、次第３議題に入ります。<br>進行につきましては、「協働のまちづくり推進計画検討委員会の設置及び運営に関する要綱」第６条の第１項により、委員長に議長をお願いします。<br>山本委員長、よろしくお願いします。<br><br>議題<br>（１）第１次推進計画・後期実行計画の取組から見える課題及び新たな課題について |
| 委員長 | これより、議題（１）第１次推進計画・後期実行計画の取組から見える課題及び新たな課題について<br>事務局から説明をお願いします。 |
| 事務局 | ―事務局より説明― |
| 委員長 | ただ今、事務局から説明がございました。<br>このことについて、御質問等ございましたら、お願いします。<br><br>―質問なし― |
| 委員長 | それでは、関谷教授から、グループワークを進めるに当たってのポイントがございましたら、お願いいたします。 |
| アドバイザー | これから本格的にグループワークをしていくのだが、グループワークをしていくにあたって、ポイントとなる部分について話をさせていただく。<br>資料にあるように、グループワークの内容が書かれていると思うが、今回は第１次推進計画、後期実行計画の取り組みから見えてくる課題及び新たな課題の要因について話し合っていただく予定となっている。<br>これまで推進計画に基づいて、協働のまちづくりを推進してきた。これまでの取り組みを項目ごとにまとめてあるが、これらの取り組みについて、これまでどうだったのかというのを、皆様の目線で評価していただいて、この項目はうまく実行できている、または |

| | |
|---|---|
| | 改善されてないのではないかというものを出していっていただきたい。<br>　項目ごとにグループが分かれていて、環境づくりという部分についてだが、活動支援、中間支援、資金支援、ネットワークの拡充といったように、計画を立てた当初から、地域活動をもっと活性化させていかなければいけないという思いがあり、それらを踏まえ、計画に盛り込まれた経緯がある。<br>　自治会のような地縁活動、ＮＰＯ、企業といった色々な方達が、それぞれ地域に関りを持っている。そういった活動をもっと活性化させていくためには何が必要なのかを考えてきた。<br>　すでに完成したサポートセンターをはじめ、こういった環境というものが少しずつ整えられているというのが、現状である。こういう活動をどういう風に広げていけるか、市民活動というものがどんな風に見えているか、色々な見方がある。<br>　環境づくりの中で、市民の皆様が、地域に携わっていけるような環境が今整っているのかどうか、この点をぜひ深堀りしていっていただきたい。<br>　地域活動というものは、人とお金が足りないという問題があり、ほとんどの自治体が補助金という支援を行っている。<br>　だが、補助金に依存するといったようになると、活動の自立というものが育まれて行かない。その自立をさせるためには何が必要なのか、そういった部分も環境づくりの中では課題となっている。<br>　担い手づくりの部分では、地域活動を誰が、どういった形で補えるのか、人材をどんどん育てていかないと、膨らんでいかない。<br>　人づくりというものはどうすればいいのか、難しい課題である。<br>　色々なところで、色々な活動や取り組みがあるが、携わる人が高齢化してきている。あるいは、次世代がなかなか育っていかない。または、参加してくれない。このように世代によって価値観が違うといった色々な問題がある。これらのどういったところに原因があるのかを考えていただきたい。<br>　その原因をあぶり出しながら、どうやったら人が育っていくのか、活動する人口が増えていくのか、この辺を考えていくのが大きなポイントである。<br>　ここにある実行計画も学びの場や情報交換の場、これらをもっと豊かに作っていこうということで盛り込まれているが、そういった場が現在足りているのか、それとも足りていないのか、またはでき |

| | |
|---|---|
| | ていないのか、そういったことを掘り下げていっていただきたい。<br>　情報の提供と共有の部分であるが、全体的に言えることだが、地域づくり、まちづくりに関する情報がどのように届けられているのかいないのか、またその情報が活かされているのかいないのか、深堀りしていただきたい。<br>　もちろん公的な情報は、ホームページであったり、チラシであったり色々あるが、伝えられるものはほんの一握りである。<br>　地域でどんな課題があるのか、どんな人達が活躍しているのか、こういう情報が共有されているのかどうかというところから始めて、情報の共有のあり方というものを考えていただければと思う。<br>　市政への参画、市の体制の部分は、行政との関りの部分である。<br>　市民活動、地域活動も行政と共にやっていくことも協働と言うが、それが現在富里市でどのくらいできているのかどうか。<br>　多くの自治体では、段階的に連携というものが進んできている。<br>　だが、ここ１０年間くらいで差も出てきている。熱心なところは、市民と行政が一緒になって色々な取り組みをしているが、そうじゃないところも存在し、空回りが続いている部分もある。<br>　行政だけでは予算が限られているため、地域活動というものは限界があり枯渇してしまう。それでは市民の主体性も育たないため、地域課題が放置されてしまう。<br>　どうやったら連携ができるのか、行政と地域との対話がどれくらいできているのか、どんなことをやったら両者が連携できるのかを考えなくてはいけない。<br>　まだまだ協働というものは途上であると言われていて、行政側、市民側、両者で立場がそれぞれ違う。持っている情報量が違うし、立ち位置も違う。何が問題なのかということも共有できていない実情がある。<br>　行政目線と市民目線での課題は一致していないことが多い。そういったところをどのように取りほぐして、両者の間で調整できるかが課題である。<br>　この推進項目も、できるだけ両者の距離を縮めて、色々な事を一緒に考えていこうということができるようにする中身にしなくてはいけない。<br>　１０年間、計画が推進されてきて、行政との距離感がどう変わってきているかも考えていただきたい。<br>　本日はそういったポイントを念頭に置いていただき、現状と取り |

| | |
|---|---|
| | 組みはどうだったのか、課題を出しながら掘り下げていっていただきたい。<br>　次回はそれらを踏まえて、解決に向けたアイデアを出していくことを予定している。<br>　これをやろう、あれをやろうというものも、課題が何かということが見えていないといけない。<br>　この課題解決のために、こういうことをやろうといものが次期計画の具体的な中身となってくる。<br>　それらを踏まえて、どんどん意見を出していって活発な議論をしていただければと思う。 |
| 委員長 | 　ありがとうございました。<br>　それでは、ポイントを押さえたところで、各グループで話し合いを開始したいと思います。<br>　グループワークは、１１時１０分頃までを目安にしてください。市民活動推進課の職員は、グループ内の進行を務めてください。<br>　では、グループワークを開始しましょう。<br><br>－グループワーク－<br><br>　では、時間となりました。<br>　それでは、これから１０分間休憩を取ります。<br>　発表する方は、グループ内で話し合った内容のまとめをしていただき、発表の準備をしておいてください。<br><br>－休憩－ |
| 委員長 | 　それでは、これより、グループごとに話し合った結果を発表していただきます。<br>　各グループの発表の後、発表に対し皆さんから他の視点などで提案などがあれば、いただきたいと思います。<br>　そのあと、関谷教授から発表内容についてのコメントをいただき、次回の方向性が見えるようにしていきたいと思います。<br>　発表は、１グループあたり２分以内でお願いします。<br>　それでは、環境づくりグループよりお願いします。 |

| | |
|---|---|
| | －環境づくりグループ発表－ |
| 委員長 | 発表ありがとうございました。<br>今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょうか。<br><br>－特に意見なし－ |
| アドバイザー | 人材不足や年度目標といったものは、協働という分野で考えると少し難しい部分がある。<br>協働というものは、担当部署が受け持つというより、どの部署にも関わるものである。各課で、この協働という部分をどういう風に位置付けていくか、その中でいつまでに何をやるのか。その辺がクリアになっていかないと具体的な進捗はない。<br>この推進計画というものは、全庁的にやっていこうという計画で、この１０年間で見れば、いい内容で進んできているとは思う。<br>ただ、全体的な進捗管理、それぞれの部署での進捗管理というものが、まだまだクリアになっていない部分もあり、これらをどうしていくか。<br>全体的な部分で出ていたＰＲ不足とあったが、この部分も、ぜひ皆様にアイデアを出していただきたいところである。なかなかいい仕組みがあっても、様々な情報発信はされていても、市民の方々に届かない現状がある。それらをどう工夫したら克服できるのか。そこについてもアイデアを出していただきたい。<br>必要な情報が届かないといった問題は他の自治体も多く抱えている課題であり、考えていかなければいけない。<br>補助制度についても多くの自治体でやっているが、先行してやってきたところは、応募団体の減少という問題を抱えている。手続の問題や、回数制限等の問題で、先が見えない部分で敬遠傾向になりがちである。こういった支援制度をこれからどうしていくかは課題である。<br>市民活動団体が単独でやれることには限界がある。様々なところと連携しながらやっていくことが望ましい。連携するための支援というものにはなっていないので、担当する部署まで行き渡っていないことが課題としてある。これらの視点を踏まえて、支援制度については考えていかなければいけない。 |

| | |
|---|---|
| 委員長 | ありがとうございました。<br>それでは、担い手づくりグループの発表をお願いします。<br><br>―担い手づくりグループ発表― |
| 委員長 | 発表ありがとうございました。<br>今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょうか。<br><br>－特に意見なし－ |
| アドバイザー | 学びの場ということで、協働のまちづくり講座や協働塾というものが現在まで多く開催されてきたと思うが、それに関してはとても大事なことで、参加者からも様々な感想を聞くことができる。<br>同時に課題となって見えてきているのが、１回受講したが、その後が繋がらないとか、様々なことを知り得たが、活動に繋がっていかないといったことがある。<br>学びの場は沢山あるが、近年のニーズとしては、学びの場だけでは足らない。現場に参加したいといった人たちが増えてきているが、実際にどう活動していったらいいかわからない、活動の場所や機会がないといった人も多い。学びから実践へ架橋していくことが現在の課題である。<br>小学生というワードも出たが、学校教育としての学習では、そこで終わってしまう。学校教育、生涯学習、協働としての学びの場がもっと繋がりをもっていかなければいけない。色々な場面で、色々な年代が、色々なことを学んでいかなければ、活動というものは広がっていかない。<br>現在は学びの場というものが分断されていて、うまく連動していない。これについても検討していかなければいけない。<br>情報の交換の場としては、色々な活動団体の情報を学んでいこうというもので、推進計画のポイントでもあった。<br>自治会のような取り組み、ＮＰＯのような取り組み、ボランティア団体の取り組み、色々なところで色々な事をしているのだから、みんなで学び合おうという視点が必要。<br>実際に、こういうことをやっているという情報は発信されているが、こういうことができていないという情報は発信されていないの |

| | |
|---|---|
| | が現状である。<br>　一つの団体でやれることには限界がある。人、お金、アイデアが足りていないといった、色々な問題が存在している。そういった情報を共有していくようにしていかなければいけない。何を必要としているのかわかるような情報共有が必要である。<br>　ポイント制度の部分も、今後どのように発展させていくかを考えなければいけない。全国的にも色々な取り組みがなされている。<br>　ボランティアをしてポイントを貯めて、地域の活動に寄附をできるようにするといったことや、貯まったポイントを地元の商店などで使用できるようにするだとか、地域通貨のような取り組みとポイント制度を絡めて、地域における人やお金の流れを豊かにするといった動きがある。これがいいか悪いかは賛否両論ではあるが、色々なやり方があると思うので、色々な可能性を含めて、ポイント制度とお金のまわり方というあたりも検討していくことが大事である。 |
| 委員長 | 　ありがとうございました。<br>　それでは、情報の提供と共有グループの発表をお願いします。<br><br>―情報と提供と共有グループ発表― |
| 委員長 | 　発表ありがとうございました。<br>　今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょうか。<br><br>－特に意見なし－ |
| アドバイザー | 　情報というものを、どういう風に整理していくかが大事なこと。<br>　様々な情報があると思うが、それらが目的に合わせて得られる環境にあるのかどうか。<br>　情報が拡散してしまっているため、どう整理していくかが課題である。全体的に共通する視点である。<br>　地域活動というものは、色々な方々が携わっていて、事業をされている方々も地域に関わっている。そういう情報はあるのだけれどもなかなか発信、共有されていないのが現状である。<br>　商売されている方々の声を聞くと、地域に入っていく機会も場もなく入り口が見つからないと言って、空回りしてしまっている現状 |

| | |
|---|---|
| | もある。<br>　地域活動には色々な担い手がいるということをもっとイメージとして膨らませて、繋いでいくということをやっていかないといけない。<br>　情報の発信に関しては、冊子であったり、ホームページなどであったり、色々な媒体で実施しているが、自分に必要な情報として受け止められていない部分が大きい。自分の問題として受け止められるような情報発信の仕方、共有の仕方というものを考えていかなければいけない。<br>　また、どこでどういう活動をしたかという情報だけでは足りない。情報の受け取り手のことも考え、イメージが膨らむ情報発信にしなければ、共有されていかない。<br>　世代によって、コミュニケーションツールが違うため、色々な世代に叶うような場づくりは難しいと考える。直接会って話したほうがいいと考える世代もいれば、ツイッターやＳＮＳを通じてコミュニケーションをとる世代もいる。若い世代に関しては、それらが顕著で、日々の情報交換はそれらを通じて行っている。<br>　そういったコミュニケーションツールというものをまちづくりの中に取り入れていかなければいけない。<br>　どういうターゲットに、どういう情報を、どういうふうに伝えるかということを考えていただきたい。 |
| 委員長 | 　ありがとうございました。<br>　それでは、市政への参画・市の体制グループの発表をお願いします。<br><br>―市政への参画・市の体制グループ発表― |
| 委員長 | 　発表ありがとうございました。<br>　今の発表に対して、他の点など、何か提案などありますでしょうか。<br><br>－特に意見なし－ |
| アドバイザー | 　パブリックコメントや市民提案の機会とあるが、これは市民の意見をどんどん聞いていこう、取り入れていこうというもので、ずっ |

| | |
|---|---|
| | とやってきている。パブリックコメントに関しては、意見が少数の場合が多い。実際の計画が示されても、市民目線では、わからないという実情がある。<br>近年では、わかりやすい概要版みたいなものを市民に発信して、それに対して意見をもらうといった形がある。<br>参加できる制度自体は色々整ってきているが、その運用の部分での課題も考えていかなければいけない。<br>協働の推進に対しては、様々な取り組みを実施してきたが、まだまだ足踏み状態である自治体も多い。<br>市民と行政との対話が少ないというところから始まり、両者の物の見方、考え方のズレというものがある。<br>行政が持っている現場意識、課題意識と、市民が持っている意識がズレているといったケースが多い。だから足並みが揃わない。<br>共通の土俵ができていないと協働は進んでいかない。そういう環境づくりといったものも、合わせて問われてくるところである。<br>縦割り状況というものが今でも続いているが、課題を深堀りしていくことをやっていかないといけない。問題や課題に対して、どれだけ横の繋がりを持てるのか。<br>問題は、現場の当事者であり、色々な支援活動というものがどれだけ現場に届いているかという視点で、活動を見直し、必要とされているものは何か、どんな連携が必要かを考えていくことが協働のステップの踏み方である。<br>それぞれがやっているというだけでは足りないし、連携に対してもイメージが膨らんでいない。具体的に何をしていくのかをしっかり見極めて、考えて行動していく場の機会を作っていくのが協働である。<br>色々な立場の人が入り混じって一緒に考えていくことができるような形、体制というものが求められてくる。<br>既存の壁に阻まれているのが実情ではあるが、それでも少しずつ前進できるようなものを計画に盛り込めればいいと考える。<br>協働事業は PCDA サイクルでは回らないとされている。どういうことをいつまでにやればいいかという具体的な形が見えてこないのも事実。そういった中で、どことどこが連携すれば、どういうことができるようになるのかを見つけていけるような体制づくりが求められている。 |

| | |
|---|---|
| 委員長 | ありがとうございました。<br>短い時間ではありましたが、各グループの検討内容について、全体共有、意見交換ができました。<br>また、関谷教授から各グループにアドバイスもいただきましたので、今一度、課題を整理することができるかと思います。<br><br>（３）関谷教授によるアドバイス |
| 委員長 | それでは、次第３、関谷教授によるアドバイスに入ります。<br>関谷教授から、今日の全体的な講評及び次回の課題解決の検討に向けてのアドバイスをお願いします。<br>関谷教授、よろしくお願いします。 |
| アドバイザー | それぞれのテーマ、項目ごとに出していただいた課題等は、次回に向けて深掘りしていただければと思う。<br>話し合いでは出なかったような課題や問題、原因等があれば次回に持ち寄っていただければと思う。<br>次の会議は、今日出てきた課題に対してどのように解決していくべきかを話し合っていただく。今日出た問題を今後色々なスパンで捉え、解決していくためには、どのようなことが必要となってくるかという視点で、各自の意見を持ち寄っていただければと思う。<br>次期計画のフレームはまだ定まっていないため、今あるこの４つの項目をベースに、次の計画を立てるべきか、組み替えていくのかどうかも含めて考えていただきたい。<br>何ができていないのか、理由、原因から、解決策や仕組み、取り組みに対するアイデアを出していっていただきたい。 |
| 委員長 | ありがとうございました。<br>それでは、これで本日の議事を終了します。<br>進行を事務局に引継ぎます。<br>御協力ありがとうございました。<br><br>次第４　その他 |
| 事務局 | その他でございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。 |

| | |
|---|---|
| | ーその他特に意見なしー<br><br>ー事務局より次回日程の連絡ー<br><br>（閉会） |